



## 創立80周年にあたり

近江学園は、「この子らを世の光に」という言葉を残した糸賀一雄により昭和21年(1946年)11月15日に大津市の南郷に創設され、令和8年(2026年)11月15日で80回目の創立記念日を迎えます。

創立以降、刻々と変化する子どもたちを取り巻く社会の問題や課題に、果敢に挑みながら80年間切れ目なく子どもたちへの支援を続けてきました。

この間、昭和46年(1971年)の湖南市への移転や令和6年(2024年)の国舎の建て替えなど、地域の方々のご理解やご支援には感謝の言葉しかありません。

創立80年を迎える今年度、重点方針として「相互理解と共感」を全職員の共通の価値として権利擁護とコミュニケーションに重点をおいた支援を行っています。

支援手法の一つとして絵カード交換式コミュニケーションシステム(PECS)を取り入れるなど、表出コミュニケーションに重点を当てた支援に取り組んでいます。

戦後から現在まで先人がつづなぐ、大事にしてきた「この子らを世の光に」という学園の理念の基、今後も「障害のある子どもたちの地域生活の実現」に向けて走り続けていきますので、引き続き、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

滋賀県立近江学園  
園長 高橋 勝守

## 「新重点方針」 令和8年 重点方針を新たに策定

「相互理解と共感」を全職員の共通の価値として権利擁護とコミュニケーションに重点をおいた支援を行っています



## 近江学園運営方針

令和8年4月1日

### 基本方針（使命）

#### 「障害のある子どもたちの地域生活の実現」

早稲穂の地域生活を見据え、入所支援、地域の子どもが自分らしく地域生活を継続するために必要な支援を行う

### 重点方針

#### 権利擁護

意思決定支援等により、子どもたち一人ひとりが自分らしく主体的に生きる力を身につけられるよう支援

#### コミュニケーション支援

表出・理解コミュニケーションを推進し、児童と周囲の相互理解と共感を醸成

### 4つの柱

#### 1 一人ひとりの確かな成長を支える支援

##### コミュニケーション支援

PECS等による意思疎通手段の獲得

重点

##### 権利擁護と意思決定支援

感情コントロール・適切な意思表示の支援

重点

##### 多様性に応じたケア

発達や特性に応じた支援でQOL向上

##### 心身の健康管理

医師・看護師・栄養士による統合的支援

#### 2 地域での育ちを支える支援

##### 権利擁護の実現

衣食住が整い安心安全な生活環境の提供

重点

##### 家族とのつながり再構築

児童と家族の交流を支援・関係修復支援

##### 里親制度の活用

家庭生活経験と特定の大人との関係構築

##### レスパイトケア

保護者の疲労・疾病時の一時的な支援

#### 3 滋賀県の障害児受援の発展に向けた取り組み

##### コミュニケーション重視の連携

関係機関との情報共有と協働体制構築

重点

##### 関係者会議の実施

年1回、入所児童全員の情報共有と連絡確認

##### 地域ネットワーク構築

福祉施設・相談支援・行政・学校の連携体制

##### 地域との交流

ワークショップ、催事参加、作品展示販売

#### 4 人材育成

##### コミュニケーション支援の推進

係属制の内部組織編成とスーパーバイズ体制

重点

##### 専門性の向上

行動障害、発達障害、アタッチメント研修

##### 法令遵守と資質向上

模範のある業務遂行と職員としての育成

##### チームアプローチ

心理的安全性が守られた風通しの良い職場



## 重点方針における コミュニケーション支援の 取り組み事例

児童精神科医・門真一郎先生による  
PECSを含むコミュニケーションについての講義風景

## 重点方針の策定を踏まえ 各係の今年度の取り組み

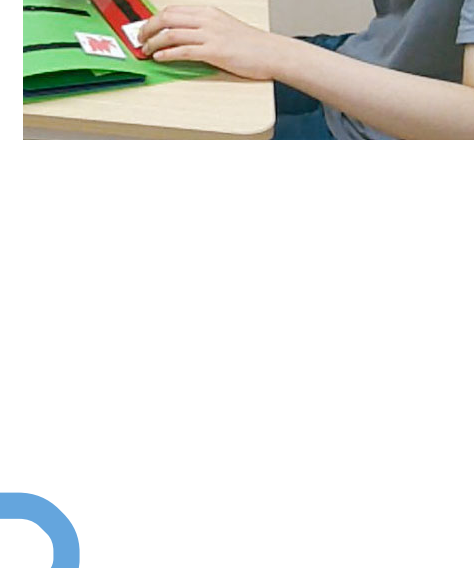
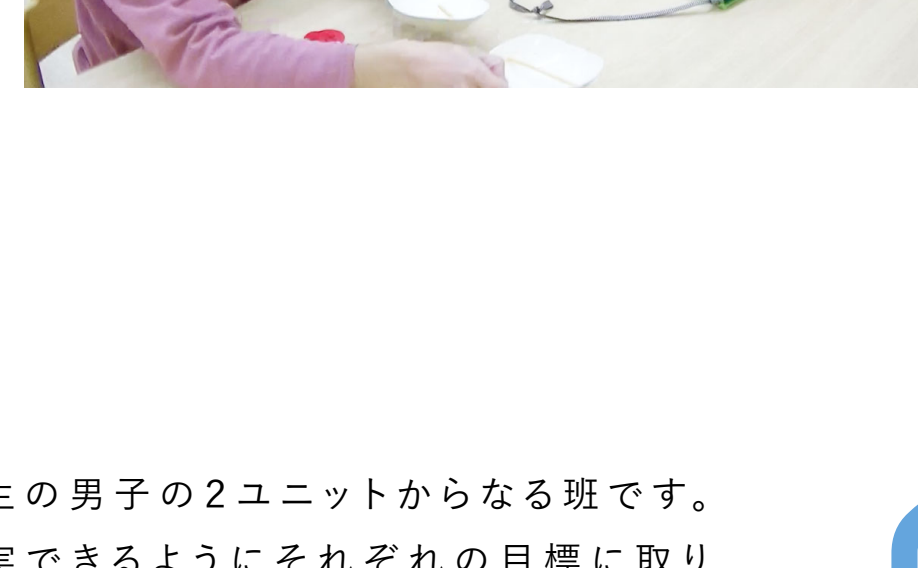


### 1 班

1班は元気いっぱいな男子9名のグループです。  
加えて、週末を中心に短期入所も多く利用されています。  
今年度は学園全体として権利擁護・コミュニケーション支援に注力することから、「自分で選び、決めて、楽しくチャレンジする余暇支援」・「伝わるよるこびを感じあうコミュニケーション支援」を行っています。子どもたちと様々な方法で思いを伝えあい、成長しあえる取り組みを進めていきたいと思っています。

### 2 班

2班では、男女それぞれのユニットを運営し、重度から中度の障害のある児童の生活支援をおこなっています。視覚支援ツールやPECSを活用し、児童の理解促進と安心感の醸成を図ること、自己表現や意思決定を支援し、コミュニケーション能力の向上に力を入れています。さらに、地域支援係とともに地域連携型短期入所の受け入れを通じて、家庭と地域との支援体制の充実に努め、児童とその家族が安心して生活できる環境づくりを推進しています。

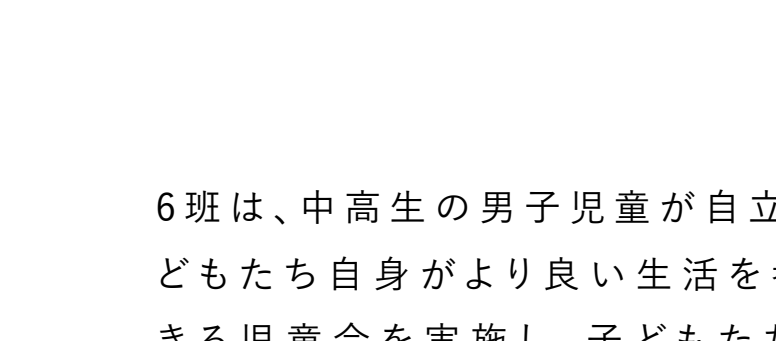


### 3 班

3班は高校生の女子、小中学生の男子の2ユニットからなる班です。  
日々、自分の生活がもっと充実できるようにそれぞれの目標に取り組んでいます。年齢や状況に合わせて、自分でできることを増やし主体的に考えて行動できる力を身につけるように、勉強をしたり、経験を積んだりしています。楽しむときは思い切り楽しんで、学ぶときは真面目に勉強したり、振り返ったりすることを大切にしています。

### 4 班

4班は高校生の女子のみの班です。基本的に身の回りのことは全て自分で行い、朝食は毎日子どもたちがメニューを考えて作っています。近江学園を卒業した後をイメージして、心も体も健康で安定した生活ができることを目標にしています。子どもが主体的に自分の生活や進路を考え、将来の自分のために必要な経験を日々重ねています。状況に合わせてグループホームや一人暮らしの練習なども行います。



### 5 班

5班は小学生男児と、小学生～高校生の女児の二つのユニットからなる班です。まだまだアタッチメント形成途中の子どもたちなので、様々な機会を提供し、職員も一緒に活動しながら経験を積んでもらっています。日々、失敗やトラブルが起こりますが、子どもたちの意思を尊重しながらその都度振り返りを行い、また、なるべく良い行動に注目し、評価するような支援を心掛けています。  
また、PECSトレーニングを実施し、生活場面全般での機能的コミュニケーション手段の獲得に努めています。



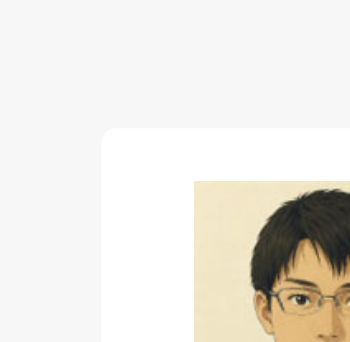
### 6 班



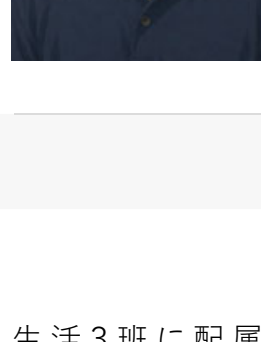
6班は、中高生の男子児童が自立を目指して生活する班です。子どもたち自身がよい生活を考えて、意見を表明することが出来る児童会を実施し、子どもたちの主体性を育てています。また、日々の調理実習や公共交通機関を利用した外出を通して、実践的な生活スキルを育てています。  
『生と性の学習』では、集団生活の中で自分も相手も大切にできることを目的に、境界線のルールや感情の言語化、他者への気持ちの伝え方などを体験的に学べる機会を作っています。

コミュニケーション支援が重点方針に位置づいたことをうけ、今年度から所属横断的な支援チームの運用を開始しました。行動障害の支援やPECS研修を受講した職員が既存の支援チームの輪に入り、「表出/理解コミュニケーション」の両側面からの支援展開を目指すというものです。  
思いを伝える、思いを理解することは生きていく上でとても大切なことです。コミュニケーション支援を通じて子どもたちの生活がより豊かになるようにみんなで頑張っていきます。

## 地域 支援係

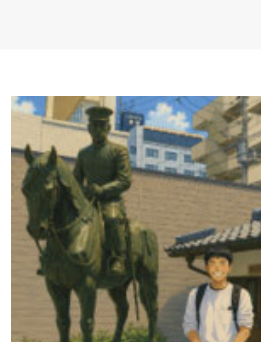


## 新採・異動 職員紹介



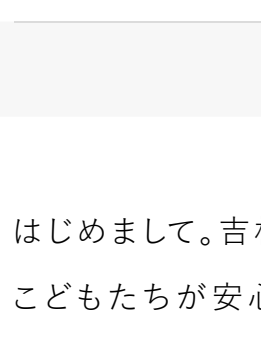
1 班  
河合 孝輝

今年度より近江学園で勤務させていただいております河合孝輝と申します。まだまだ慣れないことばかりですが、子どもたちが安心して過ごせるように頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



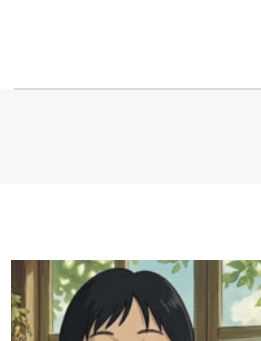
3 班  
廣瀬 千尋

生活3班に配属になりました廣瀬です。明るく元気な子ども達から、いつもパワーをもらっています。たくさんお話を聞けることを嬉しく思っています。子どもたちと一緒に色々なことを経験し、楽しく過ごしていけたらと思います!よろしくお願いいたします。



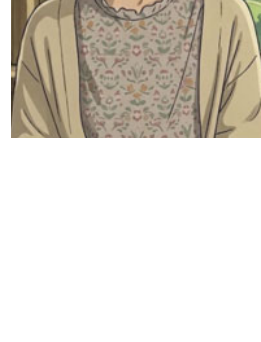
6 班  
益田 康平

今年度より近江学園で勤務させていただいております、益田康平と申します。これまでは、別の児童施設で働いておりましたが、新しい環境の中で毎日多くの学びや発見があり、充実した日々を過ごしております。子どもたち一人ひとりと丁寧に寄り添い、安心して過ごせるよう支援していきたくと思っています。感謝の気持ちを大切にしながら、一生懸命頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



6 班  
吉村 朋子

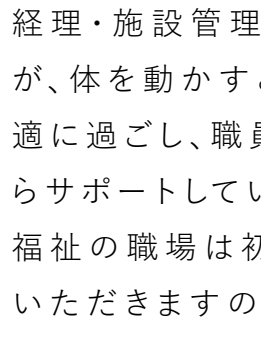
はじめまして。吉村と申します。  
こどもたちが安心して生活し、自分らしく成長できるよう、一人ひとりに応じた支援を大切にしながら、日々取り組んでいきたいと思っています。  
よろしくお願いいたします。



総務  
西垣 由子

このたび、近江学園の次長兼総務係長として重任しました西垣と申します。これまで福祉の現場での経験はゼロですが、学園で生活されているお子どもさん、ケア等の業務に従事されている職員の皆さんにとって、快適な施設であるよう、事務職としてできることを誠意努めたいと思っています。

趣味は、スポーツ観戦と美術館巡りです。私の前任地である滋賀県立美術館もおすすめの美術館でして、小さなお子様連れのご家族や施設の方など、訪れにくい人、利用しづらい人を歓迎している「やわらかい美術館」です。ぜひ一度足を運んでいただけるのを幸いです。  
いつでもお気軽に声をかけてください。  
よろしくお願いいたします。



総務  
藤井 克治

今年度、近江学園総務係に異動してまいりました藤井と申します。  
経理・施設管理の担当として、デスクワーク中心の業務にはなりましたが、体を動かすことが好きですので、少しでも外に出て、子供たちが快適に過ごし、職員の皆様がスムーズに業務に従事できるよう、多方面からサポートしていきます。  
施設の職場は初めてで、不慣れな面もありますが、精一杯努めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



医務室  
小寺 香織

今年度から医務室の看護師に定着した小寺香織です。滋賀県立総合病院の病棟で23年間、不安や苦痛を抱える患者さんに寄り添う看護に取り組みできました。

学園に異動して数ヶ月、子どもたちの元気な声が毎日元気をもらっています。病院での経験とは異なり、子どもたちの成長を見守り、健やかに過ごせるようサポートすることの大切さを感じています。

これからは、これまでの看護経験を活かしながら、一人ひとりの成長に合わせて健康を見守り、子どもたちが安心して学園生活を送れるよう心を寄せた看護を心がけます。皆様、よろしくお願いいたします。

## Information

### 給食・栄養指導

学園では、「近江学園食育推進基本計画」を定めています。昨年度、この計画の評価と見直しのために、全児童を対象に食育習慣に関するアンケート調査を行いました。

調査結果は、「食育や健康に関心がある」と答えた児童の割合は増加し、目標値である60%を達成しました。一方で、朝食の欠食率が増加したり、正しい姿勢で食事ができる児童の割合が減少しているなど、調査を行うことで見えてきた課題もありました。

この結果を踏まえ、「朝食の欠食率の減少」「正しい姿勢で食事を摂る」「食べ物を大切にする心を育む」を食育推進の重点項目として定め、近江学園食育推進基本計画を改訂しました。今回の計画では、新たな目標項目として「日々の食事場面での支援を基本とし、児童指導員、栄養士、調理員など、食に関する関係者が連携しながら、様々な取り組みを進めていきたいと考えています。

### 医務室

学園ではコロナ禍の教訓から施設での感染拡大を防ぐため、平時より感染防止対策に取組んでいます。子どもが感染リスクを減らすことを想定したゾーニング訓練を年1回行っています。児童の障害特性を踏まえながら、食事・トイレ、洗面所、お風呂場などをどのように分けずるかなど職員と検討しています。

年々職員の感染防止に対する意識は高まってきており、この数年、職員エンゼル流行期においても感染拡大せずにお収まり、このことに安堵しています。今後も子ども達がいずれも安心、安全な生活が送れるように支援すると共に健康管理にも努めていきたいと思っています。



感染症発生時を想定したゾーニング訓練の様子

### 研究担当

研究担当では『支援の質の向上』『生と性の学習』『職員交流』の3つを柱として取り組んでいます。創立以来、先輩方が『支援の質の向上』を目指して研究を重ねてきましたが、平成28年度からは自立・自律に向けた取り組みや性教育等を『生と性の学習』と位置づけ、学園全体で取り組むようになりまし。また、令和6年度からは職員同士のコミュニケーションを大切に学び合える場所とすることを目標とし、『職員交流』にも力を入れています。

今後も、子どもも大人も互いに思いやり、自分も他者も大切にできるように、取り組んでいきます。